

子どもたちの描く 未来予想図

町内の小中学生が大学生と協力して未来の町のジオラマ作りに取り組みました。震災を経験した子どもたちの考える未来の国見町の姿とは…

町内の小中学生約30人が集まり、美術を通して未来の理想の街を考えるワークショップ「未来の国見町をサイトシーイング」が2月20日、観月台文化センターホールで行われました。ワークショップには、福島大学人間発達文化学類と東京藝術大学美術学部の学生10人も参加し、空き箱やペットボトルなどを使い、将来の国見町の姿をジオラマ（立体的な模型）で表現しました。

子どもたちは自由な発想で意見を提案し、大学生と一緒に試行錯誤しながら建物や施設を制作しました。今の町には無いタワーやカフェを作る子もいましたが、豊かな自然の中に阿津賀志山があり、馴染みのある学校や藤田駅があり、さらに小坂峠には万蔵稲荷の赤い鳥居が立ち並んだ現在の様子を再現していた子どもたちもいました。これらは子どもたちにとって愛着のある、未来に残したい風景なのかもしれません。

完成した未来の町では、大学生の操縦で小型カメラを乗せたラジコン車やドローンが動きまわりました。カメラからの臨場感ある映像がモニターに映し出されると子どもたちからも大学生からも歓声があがり、笑顔が溢れました。

ホールのステージ上いっぱいには広げられた巨大な未来の国見町は色鮮やかで、子どもたちのたくさんの夢と希望が詰め込まれています。



参加した大学生の声

小中学生が元気で良い作品を作ってもらうことができ、学ぶことが多かったです。

国見町出身なので、大好きな故郷の復興のために今後も美術を通して、役に立てるような活動をしていきたいです。

東京藝術大学2年 内村寛さん

始めは小中学生とどのように接したらいいのか悩みましたが、作業を進めていくうちに打ち解け、友達感覚で接することができ、楽しく活動できました。

福島大学2年 武井麻美さん

事前学習で学んだ"国見らしさ"を表現できるように工夫しながら小中学生と作業しました。完成した作品にラジコンが走った時は、苦労した制作過程を思い出して感極まりました。

福島大学2年 熊田あかりさん

ドームをつくる！
天井はスタンドグラス！！



藤田駅がカラフルに
リニューアル



東京タワーにもスカイツリーにも
負けないタワー
高さは923メートル！
展望台は桃の形です



藤田城跡に
お城を復元！



観覧車から
町を一望！

